

- 収量コンバインで組合内の水稻の収量データを収集・集約し、構成員全員で次年度作付けへ向けて検討会を実施。
- 可変施肥機能付きブロードキャスト・田植え機で収量データに基づく可変施肥を実施することで、資材投入量を適正化し生産性を向上。

経営上の課題

- ・後継者不足や離農による労働力不足や、肥料等の資材高騰によるコストの増加が課題となっており、作業の効率化やコストの低減を図りながら、生産性を向上させていく必要。

スマート農業技術を活用し、資材の投入量を抑えた栽培管理の適正化が必要

申請者：

かみびばい
上美唄米麦営農組合（北海道美唄市）

対象品目：

水稻

スマート農業技術：

収量コンバインによるデータ取得

新たな生産方式：

収量データを組合内で共有・分析し、次期作の肥培管理（可変施肥）に活用

活用予定の支援措置：

補助事業の優遇措置

計画の概要

スマート農業技術

収量コンバイン



組合で共同で収穫作業を実施し、収量データを収集・集約

新たな生産方式

データの共有・分析



- ・集約した収量データを分析・編集し、構成員で次年度に向けた検討会を実施
- ・可変施肥機能付き田植え機やブロードキャストで収量データに基づく可変施肥を実施

スマート農業技術を活用し、資材投入量を適正化し生産性を向上